

2025年度

授 業 計 画

2 学年

(歯科衛生士科 I 部)



日本ウェルネス歯科衛生専門学校

目 次

医療倫理	1
日本語表現法Ⅱ	2
コミュニケーション論Ⅱ	3
歯科衛生統計	4
衛生行政・社会福祉	5
歯内療法学	6
歯周治療学	7
歯科補綴学	8
口腔外科学	9
小児歯科学	10
歯科矯正学	11
歯科麻酔・全身管理学	12
歯科放射線学	13
高齢者歯科学	14
障害者歯科学	15
歯科予防処置Ⅲ	16
歯科予防処置Ⅳ	17
歯科保健指導Ⅱ	18
歯科保健指導Ⅲ	19
歯科診療補助Ⅲ	20
歯科診療補助Ⅳ	21
臨床・臨地実習Ⅰ	22
歯科保険請求事務	23
総合臨床Ⅰ	24
総合臨床Ⅱ	25

■科 目		医療倫理		■講師名 遠藤 智佳	
I 部 2 学年		後期	8 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 15 時間	講義 1 単位
■学修概要					
わが国の歯科医療界において、患者中心・患者本位の医療の実践が求められています。また、医療の進歩と生命の尊厳との調和をどのようにとっていくかが今日の医療の課題です。					
■授業目的、到達目標					
歯科衛生士として歯科医療の現場で、患者との信頼関係に基づく医療サービスを提供できるように、インフォームドコンセントや生活の質（QOL）などを理解し、実践できること。さらに医療倫理とともに生命倫理についても理解を深めることを目的とします。					
■授業方法					
教科書を使用					
■教科書（書籍名・著者・出版社）					
歯科衛生学シリーズ / 歯科医療倫理学 医歯薬出版株式会社					
■成績評価・講義上の注意					
期末試験と授業態度（出席状況を含む）によって評価する。					
■実務経験					
担当教員は歯科大学病院に所属しており、実務経験に基づいて臨床に沿った授業を展開する。					
■授業計画（講義の流れ）					
1	概論:なぜ歯科医療倫理学を学ぶのか				
2	医療倫理に関する規範とバイオエシックス（前半）				
3	医療倫理に関する規範とバイオエシックス（後半）				
4	インフォームドコンセント				
5	研究と医療倫理				
6	歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動				
7	医療倫理に関連する規範と法令				
8	定期試験、解答解説				

■科 目		日本語表現法Ⅱ		■講師名		佐藤 潤子	
I 部 2 学年		通年 8 コマ（1 コマ 90 分授業）		総時間 15 時間		講義 1 単位	
■学修概要							
歯科衛生士の基礎的技法を習得し、臨床および公衆衛生、または年齢対象別等さまざまな状況に十分対応し得る表現力を培い実践できるようにする。							
■授業目的、到達目標							
歯科衛生士に求められる基本的な文章力や表現力をわかりやすく解説し、臨地・臨床実習で活用できる技法の習得を目指す。							
■授業方法							
講義、演習（グループワーク、グループディスカッション、発表）							
■教科書（書籍名・出版社）							
講師による資料等で対応							
■成績評価・講義上の注意							
出欠席、授業態度、課題の他、以下の項目による総合的な評価を行う。							
グループワーク・グループディスカッション：グループとしての行動の内容、協力度、達成度							
発表：準医療従事者としての身だしなみや態度、発表の技術、発声、参加することへの積極性							
課題：提出期限、内容、自学自習のクオリティ							
■実務経験							
歯科衛生士として 20 年以上、臨床及び教育現場で歯科衛生士や学生の教育に携わる。							
臨地・臨床実習施設での従事の際は、各種書類作成にも長きに亘り携わる。							
■授業計画（講義の流れ）							
1	臨地・臨床実習配属とアンケート記入						
2	臨地・臨床実習生として心構え 挨拶・言葉遣い・電話応対（患者含む）・お礼状の書き方						
3	臨地・臨床実習ノート 1：基礎的な記入方法						
4	臨地・臨床実習ノート 2：各診療科課題の効果的な活用と記入方法						
5	臨地・臨床実習ノート 3：症例記入（症例診断名・治療目的・治療手順・使用器具・問題点・患者指導）						
6	症例検討：概要説明とグループ決め 保存修復症例、補綴症例、小児歯科症例、矯正症例、口腔外科症例、歯周・歯周外科療 計 6 症例に関しての患者指導						
7	症例発表：症例診断名・治療目的・治療手順・使用器具・問題点・患者指導（患者に伝わりやすい 言葉選びのポイントと内容）						
8	まとめ						

■科 目 コミュニケーション論Ⅱ		■講師名 各担当講師 / 外部講師	
I 部 2 学年	通年	8 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 15 時間 講義 1 単位
■学修概要 コミュニケーションスキルに関する応用技能，及び関連するスキルを習得する。			
■授業目的、到達目標 コミュニケーション論Ⅰで学習した基本知識を応用し，社会人としてより良い人間関係を構築するためのコミュニケーションスキルを，問題解決力やストレス対処等を含めて学習する。			
■授業方法 講義・演習・実習			
■教科書（書籍名・出版社） 講師による資料等で対応			
■成績評価・講義上の注意 出席を前提として、授業態度、課題提出、実技試験による総合評価			
■実務経験 外部企業にて歯科衛生士の実績と経験に基づき幅広い視点から社員教育、学生教育を行う経歴をもつ。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	歯科衛生士の役割と患者待遇について		
2	自己認識とコミュニケーション		
3	ライフスキルと自己肯定感，自己効力感		
4	効果的コミュニケーション		
5	問題解決力とコミュニケーション		
6	意志決定とコミュニケーション		
7	ストレス対処とコミュニケーション，試験対策		
8	定期試験		

■科 目		歯科衛生統計		■講師名		田中 入	
I 部 2 学年		前期 8 コマ (1 コマ 90 分授業)		総時間 15 時間		講義 1 単位	
■学修概要							
IT が社会に普及した結果、現代では各個人がパーソナル PC あるいはスマートフォンを 1 台または複数台保持する時代になっている。これらより得る情報はすべて機器データであり、その特性を正しく理解して適切な処理を行う能力は医療界でも必須である。そのため口腔保健に関する各種のデータを解析する知見を養うとともに、地域共生社会における地域包括システム、多職種連携、ACP 等に関する方法論を併せて学ぶ。							
■授業目的、到達目標							
歯科疾患の疫学的特性を理解し、臨床に応用できる力を身につける。また地域歯科保健で得たデータの活用方法について学び、統計学に基づく解析方法を習得してプレゼンテーションを実施する能力を養う。以って国家試験における正答率を向上させ、歯科衛生士として各種より得られた医学的統計データを十分に活用できる学識を修得する。							
■授業方法							
講義、板書ならびにスライド・動画などを活用する。また必要に応じて質疑応答を行い、正答した者には加点を行う。(ただし不正解でも減点は実施しない)							
■教科書 (書籍名・出版社)							
最新歯科衛生士教本／歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 3 保健情報統計学 医歯薬出版							
■成績評価・講義上の注意							
本試験 (論述筆記形式)、出席率、成書朗読、授業態度 (私語・居眠り等) から総合評価する。 なお筆記試験の採点には相対指数を採用する。							
■実務経験							
歯科医師の資格を取得してすぐに予防歯科学への道を進み、大学病院の口腔保健科に 11 年在籍した後もその概念に則した歯科臨床を 20 年以上継続している。歯学博士、日本口腔衛生学会専門医、埼玉県障害者歯科相談医を取得しており、明海大学歯学部客員講師、埼玉県歯科医師会地域保健部副部長および朝霞地区歯科医師会地域保健担当理事を 10 年以上務めている。							
■授業計画 (講義の流れ)							
1	歯科領域における保健情報						
2	国が行う各種の保健統計						
3	疫学とその進め方						
4	歯科領域で用いられる各種の指標						
5	採取標本の分析手順						
6	データの推定と検定						
7	プレゼンテーション時のデータ表現方法						
8	定期試験、解答解説						

■科 目		衛生行政・社会福祉		■講師名		大島 克郎			
I 部 2 学年		前期		1 5 コマ (1 コマ 90 分授業)		総時間 30 時間		講義 2 単位	
■学修概要									
歯科衛生士法を中心に歯科保健医療施策を実施する際の法律や、歯科保健医療に携わる医療関係職種の現状、わが国の社会保障の実態、医療の動向などを捉える。									
■授業目的、到達目標									
歯科衛生士が業務に従事する際、必要な法令を学ぶとともに、衛生行政や社会福祉のしくみについて理解することを目的とする。									
■授業方法									
講義を主体として行う。									
■教科書（書籍名・出版社）									
歯科衛生学シリーズ／保健・医療・福祉の制度 医歯薬出版									
■成績評価・講義上の注意									
記述式、選択肢式の期末テストにて評価									
■実務経験									
2003 年日本歯科大学大学院歯学研究科修了。日本歯科大学附属病院、厚生労働省などの勤務を経て、2015 年日本歯科大学東京短期大学・教授。現在は、日本歯科大学東京短期大学において、衛生学、衛生行政などの科目を、日本歯科大学生命歯学部において衛生学などの科目を担当している。									
■授業計画（講義の流れ）									
1	衛生行政の概要・法制概念								
2	歯科衛生士法①								
3	歯科衛生士法②								
4	歯科医師法、歯科技工士法、その他医療関係職種								
5	医療法								
6	薬事関連法規、地域保健関連法規								
7	医療保険制度								
8	年金保険、労働保険、生活保護								
9	介護保険制度								
10	高齢者福祉制度								
11	母子・児童福祉制度								
12	障害者福祉制度								
13	わが国の医療動向の統計								
14	まとめ								
15	定期試験、解答解説								

■科 目		歯内療法学		■講師名		大原 絹代			
I 部 2 学年		前期		10 コマ (1 コマ 90 分授業)		総時間 20 時間		講義 1 単位	
■学修概要									
歯の病変としての硬組織疾患、歯髄疾患、根尖性歯周疾患の成立機序とその治療法について学ぶ。これらの知識をもとに、歯科診療従事者としての治療の流れを理解し、器具、器械ならびに歯科材料の取り扱い方や管理法などについても習得する。									
■授業目的、到達目標									
臨床歯科医学である本科目は、歯科衛生士業務の「歯科診療補助」と密接に関わる。歯科診療補助を行う上で何故このような処置を行うのか、何故この薬剤を応用するのか、などの治療の流れを理解する。また、歯科保健医療を担うチームの一員としての自覚を身につけることにも繋がると考えている。									
■授業方法									
授業の進行は、前回の授業の復習をしつつ理解状況を鑑みながら、その進行を決定していく。									
■教科書（書籍名・出版社）									
歯科衛生学シリーズ/保存修復学・歯内療法学 医歯薬出版									
■成績評価・講義上の注意									
授業中の平常点を加味しつつ、授業最後に実施する定期試験により評価する。									
■実務経験									
歯科医師として臨床実務経験を持つ教員が、実際の臨床経験を踏まえて授業展開を行う。									
■授業計画（講義の流れ）									
1	本科目の授業展開について、歯内療法学概要、診査法								
2	歯髄疾患，根尖性歯周組織疾患の分類と症状、処置方針								
3	歯髄保存療法								
4	歯髄除去療法								
5	根管充填								
6	根未完成歯の根管処置								
7	外科的歯内療法								
8	歯内療法における安全対策								
9	歯内療法における歯科衛生士の役割								
10	定期試験、解答解説								

■科 目		歯周治療学		■講師名		大崎 忠夫	
I 部 2 学年		前期 15 コマ (1 コマ 90 分授業)		総時間 30 時間		講義 2 単位	
■学修概要							
歯周病の原因や進行のメカニズム、治療法、予防法を学び、歯周病についての理解を深め、歯周治療における歯科衛生士の役割の重要性を学ぶ。							
■授業目的、到達目標							
歯周疾患は代表的な口腔疾患の一つである。本講義では歯周疾患の発症から病変の進行、診査、治療法を理解し、学習した知識を臨床で有効に活用できる能力を習得する。							
■授業方法							
対面での講義で行い、授業の最初に前回授業のポストテストを行う。必要に応じて補助資料を配布する。							
■教科書（書籍名・出版社）							
歯科衛生学シリーズ／歯周病学 医歯薬出版							
■成績評価・講義上の注意							
講義中の態度および出欠状況、ポストテスト、定期試験の結果から総合的に評価する。							
■実務経験							
担当教員は大学ならびに専門学校教員として歯周治療学の講義を担当しており、大学病院および診療所での長年にわたる歯周治療の臨床経験をもとに、歯周治療の重要性を理解し、知識をしっかりと身につけた歯科衛生士が育成されるよう講義を行う。							
■授業計画（講義の流れ）							
1	歯周治療とは						
2	正常な歯周組織の構造と機能						
3	歯周病の分類						
4	歯周病の原因						
5	歯周治療の進め方						
6	歯周病の検査(1) 主訴を中心とした一般検査、歯周病検査						
7	歯周病の検査(2) 咬合診査、画像診断、その他の診査						
8	歯周基本治療(1) 歯周基本治療の目的と効果、歯周基本治療の内容と実際						
9	歯周基本治療(2) 口腔衛生指導とスケーリング・ルートプレーニング						
10	歯周外科治療(1) 歯周外科治療の目的と分類、歯周外科治療後の治癒形態						
11	歯周外科治療(2) 歯周外科治療に用いる器材、種々の歯周外科治療 1						
12	歯周外科治療(3) 歯周外科治療に用いる器材、種々の歯周外科治療 2						
13	歯周治療としての口腔機能回復治療、SPT・メンテナンス						
14	歯周治療についてのまとめ						
15	定期試験、解答および解説						

■科 目		歯科補綴学		■講師名		下山 和弘	
I 部 2 学年		前期 1 5 コマ (1 コマ 90 分授業)		総時間 30 時間		講義 2 単位	
■学修概要							
歯科補綴学は人工装置を用いての形態や機能の回復、疾病予防を目的とする学問である。補綴歯科治療および補綴装置の特徴を理解し、さまざまな術式、器具、材料などについて学習することによって、歯科補綴学の視点から口腔健康管理の知識・技術を習得する。							
■授業目的、到達目標							
補綴歯科治療の最終的 목적は Quality of Life の維持・向上であり、歯科衛生士として必要とされている知識・技術を習得することが本講義の目的である。本講義では、補綴歯科治療の特徴、補綴歯科治療に必要なとされる基礎知識、補綴装置の種類と特徴、補綴歯科治療の臨床ステップを習得する。							
■授業方法							
講義							
■教科書（書籍名・出版社）							
歯科衛生学シリーズ／歯科補綴学 医歯薬出版							
■成績評価・講義上の注意							
学習態度および定期試験の点数で評価を行う。 いままで学んできた各科目の知識を前提に講義が行われる。							
■実務経験							
東京医科歯科大学大学院・歯学部および歯学部附属病院にておよそ 40 年間、教育・臨床を行った。							
■授業計画（講義の流れ）							
1	補綴歯科治療の意義と目的						
2	補綴歯科治療の基礎知識①						
3	補綴歯科治療の基礎知識②						
4	補綴歯科治療における検査						
5	クラウンブリッジ治療の基礎①						
6	クラウンブリッジ治療の基礎②						
7	全部床義歯治療の基礎①						
8	全部床義歯治療の基礎②						
9	部分床義歯治療の基礎①						
10	部分床義歯治療の基礎②						
11	部分床義歯治療の基礎③						
12	インプラント治療の基礎						
13	特殊な装置による治療の基礎						
14	予備日						
15	定期試験、解答解説						

■科 目		口腔外科学		■講師名		丹野 咲貴			
I 部 2 学年		前期		1 5 コマ (1 コマ 90 分授業)		総時間 30 時間		講義 2 単位	
■学修概要 口腔外科で取り扱う疾患及び全身疾患と口腔との関係を学ぶ。 実際の歯科衛生士業務で必要な口腔外科的な基礎知識を修得する。									
■授業目的、到達目標 顎・顔面・口腔領域に生じる疾患の原因・病態・病状・対応を知り、口腔外科小手術に対する準備や手順について理解する。									
■授業方法 講義									
■教科書（書籍名・出版社） 歯科衛生学シリーズ／口腔外科・歯科麻酔 医歯薬出版									
■成績評価・講義上の注意 定期試験の採点結果を評価対象とする。 なお、最終的な成績は、定期試験の 75%以上の多肢選択式客観試験問題の結果に基づくものとする。									
■実務経験 総合病院の口腔外科、歯科大学病院の口腔外科で 12 年間臨床経験。現在は歯科診療所に勤務。 口腔外科診療での経験を基に、本教科書と実際の臨床を結びつけるような学習が出来る様考えている。									
■授業計画（講義の流れ）									
1	口腔領域の損傷：歯の外傷、顎骨骨折、軟組織の損傷								
2	口腔領域の先天異常・変形：歯・口腔軟組織の異常、唇顎口蓋裂								
3	口腔粘膜疾患：水疱形成、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着を主徴とする口腔粘膜疾患								
4	顎関節疾患：顎関節症、顎関節の外傷などの顎関節疾患								
5	口腔領域の炎症：歯周組織、顎骨、顎骨周囲組織の炎症								
6	口腔領域の嚢胞：顎骨内、軟組織に生じる嚢胞								
7	口腔領域の腫瘍：歯源性腫瘍、非歯源性腫瘍、前癌病変、腫瘍類似疾患								
8	唾液腺疾患：唾液腺の炎症、腫瘍など								
9	口腔領域の神経疾患：口腔領域の神経痛、神経麻痺、オーラルジスキネジア								
10	血液疾患と出血性素因：赤血球系、白血球系の疾患、出血性素因								
11	口腔・顔面に症状を現す症候群：形態異常や粘膜症状を表す症候群								
12	診察と診断・滅菌と消毒、インプラント治療								
13	創傷処置・口腔外科小手術・口腔出血に対する処置								
14	テスト前対策								
15	定期試験、解答解説								

■科 目		小児歯科学		■講師名		遠藤 智佳	
I 部 2 学年		前期	1 5 コマ（1 コマ 90 分授業）	総時間 30 時間		講義 2 単位	
■学修概要							
小児歯科学は他の学科目と異なり包括医療を行い、その対象は成長発育の過程にある乳児から18歳前までと広いことから、多岐に亘る知識と他科との相互理解を必要とします。心身の成長と顎顔面、歯、口腔組織並びに咀嚼、咬合の発達について、また、臨床実習へ進むための基本的な知識、技能、態度について概論を学びます。							
■授業目的、到達目標							
小児歯科診療に求められる歯科衛生士業務を実践できるようになるため、予防教育および包括的な歯科診療補助について理解することを目的とする。							
■授業方法							
教科書、配信資料を用いた講義							
■教科書（書籍名・出版社）							
歯科衛生士講座／小児歯科学 永末書店							
■成績評価・講義上の注意							
期末試験と授業態度（出席状況を含む）によって評価する。							
■実務経験							
担当教員は大学病院小児歯科に所属しており、実務経験に基づいて臨床に沿った授業を展開する。							
■授業計画（講義の流れ）							
1	概論、心身の発育						
2	頭蓋、顎顔面の発育						
3	歯の発育と異常、乳歯・幼若永久歯の特徴とう蝕						
4	歯列・咬合の発育と異常						
5	小児の歯科疾患						
6	小児歯科における診療体系						
7	患児への対応法						
8	小児歯科におけるう蝕予防と進行抑制						
9	小児歯科における局所麻酔法、小児の歯冠修復						
10	歯内療法						
11	実習（生活歯髄切断法のアシスタントワーク）						
12	外科的処置						
13	外傷の処置						
14	咬合誘導						
15	定期試験、解答解説						

■科 目			歯科矯正学		■講師名		加藤 有美		
I 部 2 学年		前期		1 5 コマ（1 コマ 90 分授業）		総時間 30 時間		講義 2 単位	
■学修概要									
矯正治療に必要な不正咬合の成り立ち、診断、治療について学ぶ。 また、矯正装置、矯正器具についても学ぶ。									
■授業目的、到達目標									
矯正治療に必要な知識を習得する。 歯科衛生士が主に行う MFT についての基礎知識を習得する。									
■授業方法									
スライド、板書、実習、動画視聴など									
■教科書（書籍名・出版社）									
歯科衛生学シリーズ／歯科矯正学（第 2 版） 医歯薬出版									
■成績評価・講義上の注意									
定期テストに加え、出席なども加味する。									
■実務経験									
日本大学松戸歯学部矯正科に勤務していた経験あり。歯科医師向けセミナー講師の経験あり。									
■授業計画（講義の流れ）									
1	概論、成長発育								
2	成長発育、正常咬合								
3	不正咬合の分類 不正咬合の原因								
4	診断								
5	診断								
6	治療学								
7	治療学								
8	歯周組織と矯正力								
9	顎変形症・症候群など、急患対応								
10	MFT								
11	矯正装置								
12	矯正装置								
13	矯正器具								
14	矯正器具								
15	定期試験、解答解説								

■科 目		歯科麻酔・全身管理学		■講師名		濱田兼士朗 三原唯華	
I 部 2 学年		中期 15 コマ (1 コマ 90 分授業)		総時間 30 時間		講義 2 単位	
■学修概要 安全な歯科治療に必要な、患者のバイタルサインや、麻酔法、患者管理法についての知識および技術を獲得することを目標とする。							
■授業目的、到達目標 1. 安全な歯科治療に必要な、患者の全身状態（バイタルサイン）の把握と評価について学ぶ。 2. 歯科治療に伴う痛みやストレスを抑制するための麻酔法や患者管理法について理解する。 3. 高齢者や全身の疾患を有する患者の歯科治療時の注意点について学習する。 4. 緊急偶発症発現時の初期対応と救急蘇生法について学習する。							
■授業方法 講義・実習							
■教科書（書籍名・出版社） 歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 第2版 医歯薬出版株式会社 歯科衛生学シリーズ 臨床検査 医歯薬出版株式会社 歯科衛生士パスポートWeb 全身管理・感染対策・訪問診療 メディア株式会社							
■成績評価・講義上の注意 平常試験および授業態度を総合的に評価							
■実務経験 日本大学松戸歯学部歯科麻酔講座に勤務。大学病院にて臨床経験あり。歯科麻酔・救急蘇生学について授業を行う。							
■授業計画（講義の流れ）							
1	救急処置に必要な基礎知識						
2	バイタルサイン、生体情報モニタ						
3	生体検査（生理機能検査）						
4	検体検査Ⅰ（血液検査 1: 一般血液検査） 検体検査Ⅱ（血液検査 2: 血液凝固検査、血液型検査）						
5	歯科治療時における全身的偶発症						
6	検体検査Ⅲ（血液検査 3 免疫血清学的検査）						
7	全身状態評価 呼吸・循環機能の検査と評価						
8	全身状態評価 肝・腎機能の検査						
9	全身管理を必要とする疾患Ⅰ						
10	全身管理を必要とする疾患Ⅱ						
11	麻酔法Ⅰ【局所麻酔法・精神鎮静法】						
12	麻酔法Ⅱ【全身麻酔法】						
13	心肺蘇生法Ⅰ						
14	心肺蘇生法Ⅱ						
15	定期試験、解答解説						

■科 目		歯科放射線学		■講師名		大塚 航平	
I 部 2 学年		前期 8 コマ (1 コマ 90 分授業)		総時間 15 時間		講義 1 単位	
■学修概要							
放射線の原理および放射線検査の仕組みや画像診断の能力を身につけていく。							
■授業目的、到達目標							
放射線は歯科臨床において欠かすことのできない一分野であり、画像機器の進歩に伴い診断における画像検査の占める割合が増えつつある。しかしながら、放射線は放射線障害という問題をかかえているために放射線の利益および害を理解し、人体における放射線の生物学的影響や防護が重要となっている。これを踏まえて、将来歯科衛生士になるにあたり、自身の役割を認識し、放射線を安全かつ有効に扱えるようになるために必要な基礎知識を習得することを目的とする。							
■授業方法							
パワーポイントを用いたスライド形式にて行う。							
■教科書（書籍名・出版社）							
歯科衛生士講座／歯科放射線学 永末書店							
■成績評価・講義上の注意							
成績は定期試験、出席状況および受講態度等の総合評価をもって行う。							
■実務経験							
日本大学松戸歯学部放射線学講座にて、CT・MRI 検査の画像診断および研究を行っている。							
■授業計画（講義の流れ）							
1	エックス線とその性質						
2	放射線の人体への影響						
3	口内法エックス検査、現像、デジタル処理						
4	パノラマエックス線検査、口外法						
5	放射線の防護、影響および法的規制、放射線治療						
6	全身用 CT、歯科用 CBCT、MRI 検査、核医学検査、超音波検査						
7	歯および歯周組織の病変・炎症性疾患の画像診断、嚢胞および腫瘍の画像診断						
8	定期試験、解答解説						

■科 目		高 齢 者 歯 科 学		■講師名		下 山 和 弘
I 部 2 学 年	前 期	1 0 コ マ	(1 コ マ 90 分 授 業)	総 時 間	20 時 間	講 義 1 単 位
■学修概要						
<p>超高齢社会を迎え、高齢者の QOL の維持・向上のための歯科からの対応は喫緊の課題である。歯科医療・保健・福祉に関する包括的な学習を行い、高齢者の心身に関する総合的な理解に基づく口腔健康管理の知識・技術を習得する。</p>						
■授業目的、到達目標						
<p>わが国では高齢化が進んでおり、高齢者の健康管理が課題となっている。高齢者歯科学の分野では口腔機能を維持・向上させることが大きなテーマとなっている。高齢者の口腔健康管理に必要な知識を修得し、チーム医療の中で高齢者の QOL の維持・向上に貢献できる能力を身につける。高齢者を取りまく社会と環境、加齢による身体的・精神的変化と疾患、高齢者の状態の把握、摂食嚥下リハビリテーション、口腔健康管理について学習する。</p>						
■授業方法						
講義						
■教科書（書籍名・出版社）						
歯科衛生学シリーズ／高齢者歯科学 医歯薬出版						
■成績評価・講義上の注意						
<p>学習態度および定期試験の点数で評価を行う。</p> <p>今まで学んできた各教科の知識を前提に講義を行われる。</p>						
■実務経験						
東京医科歯科大学大学院・歯学部および歯学部附属病院にておよそ 40 年間、教育・臨床を行った。						
■授業計画（講義の流れ）						
1	高齢者を取りまく社会と環境					
2	加齢に伴う身体的機能の変化					
3	高齢者の精神・心理的变化					
4	高齢者の状態の把握					
5	高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患（1）					
6	高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患（2）					
7	高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患（3）					
8	摂食嚥下リハビリテーション（1）					
9	摂食嚥下リハビリテーション（2）、口腔健康管理					
10	定期試験、解答解説					

■科 目 障害者歯科学	■講師名 下山 和弘
I 部 2 学年 前期 8 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 15 時間 講義 1 単位
■学修概要 スペシャルニーズ・障害を有する人を対象とする口腔の健康の維持・向上に関する知識・技術を習得するとともに、種々の専門職種との協働をはかり、生活支援、社会参加、QOL の維持・向上に寄与する知識・技術を習得する。	
■授業目的、到達目標 スペシャルニーズのある人たちへの専門性の高い医療・保健が求められている。スペシャルニーズのある人たちの口腔の健康の維持・回復が健康の増進や社会参加に関わっている。障害の概念、歯科医療で特別な支援が必要な疾患、コミュニケーションの方法、行動調整法、摂食嚥下リハビリテーション、健康支援について、専門職として必要とされる基本的な知識を習得する。	
■授業方法 講義	
■教科書（書籍名・出版社） 歯科衛生学シリーズ／障害者歯科学 医歯薬出版	
■成績評価・講義上の注意 学習態度および定期試験の点数によって評価を行う。 今まで学んできた各教科の知識を前提に講義が行われる。	
■実務経験 東京医科歯科大学大学院・歯学部および歯学部附属病院にておよそ 40 年間、教育・臨床を行った。	
■授業計画（講義の流れ）	
1	障害の概念
2	コミュニケーションの方法、行動調整法
3	神経発達症群
4	運動障害（1）
5	運動障害（2）
6	感覚障害、音声言語障害
7	精神および行動の障害、摂食嚥下障害とリハビリテーション、健康支援
8	定期試験、解答解説

■科 目		歯科予防処置Ⅲ		■講師名		長谷川 憲子	
I 部 2 学年		通年 1 5 コマ (1 コマ 90 分授業)		総時間 30 時間		講義 2 単位	
■学修概要 口腔疾患の一つであるう蝕を予防し、歯と口腔の健康を維持・増進させるためにう蝕の原因を理解し、う蝕予防法の基本的な知識・技術を習得し、う蝕予防プログラムの実践ができるようにする。そして学んだ知識を基に相互実習と顎模型上で演習しその技術を習得する。							
■授業目的、到達目標 う蝕予防に必要な知識を学び、各種予防技術を修得する。また、う蝕活動性試験の種類・方法を理解し得られた結果を有効に活用できる能力を習得する。							
■授業方法 講義・実習							
■教科書（書籍名・出版社） 歯科衛生学シリーズ／歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版							
■成績評価・講義上の注意 定期試験、小テスト、授業・実習態度、レポート内容、出席状況により総合的に評価する。							
■実務経験 歯科医院でう蝕活動性試験を用いた予防歯科に長くたずさわって、患者さんの口腔内の健康維持・増進努めている。今までの実務経験に基づいた知識を授業で提供していきたい。							
■授業計画（講義の流れ）							
1	フッ化物配合歯磨剤						
2	う蝕とう蝕予防処置						
3	う蝕の原因						
4							
5	フッ素 フッ化物のう蝕予防メカニズム						
6	フッ化物量とフッ素濃度						
7							
8	フッ化物の種類と特徴						
9							
10	フッ化物歯面塗布						
11							
12	フッ化物洗口法						
13	小窩裂溝填塞法						
14	フッ化ジアンミン銀塗布法						
15	定期試験、解答解説 まとめプリント提出						

■科 目		歯科予防処置Ⅳ		■講師名		長谷川 憲子	
I 部 2 学年		通年 15 コマ (1 コマ 90 分授業)		総時間 30 時間		実習 1 単位	
■学修概要							
口腔疾患の一つであるう蝕の予防法を学ぶ。歯と口腔の健康を維持・増進させるためにう蝕の原因を理解し、う蝕予防法の基本的な知識・技術を習得し、う蝕予防プログラムの実践ができるようにする。そして学んだ知識を基に相互実習と顎模型上で演習しその技術を習得する。							
■授業目的、到達目標							
う蝕予防に必要な知識を学び、各種予防技術を修得する。また、う蝕活動性試験の種類・方法を理解し得られた結果を有効に活用できる能力を習得する。							
■授業方法							
講義・実習							
■教科書（書籍名・出版社）							
歯科衛生学シリーズ／歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版							
■成績評価・講義上の注意							
レポート内容、小テスト、授業・実習態度、出席状況により総合的に評価する。							
■実務経験							
歯科医院でう蝕活動性試験を用いた予防歯科に長くたずさわリ、患者さんの口腔内の健康維持・増進努めている。今までの実務経験に基づいた知識を授業で提供していきたい。							
■授業計画（講義の流れ）							
1	う蝕活動性						
2	う蝕活動性の種類						
3	う蝕活動性試験①						
4	う蝕活動性試験②						
5	う蝕活動性試験③						
6	う蝕活動性試験④						
7	う蝕活動性試験⑤						
8	う蝕活動性試験⑥						
9	う蝕活動性試験⑦						
10	う蝕活動性試験⑧						
11	う蝕活動性試験⑨						
12	う蝕活動性試験⑩						
13	レーダーチャート						
14	う蝕予防プログラム						
15	定期試験、解答解説 レポート提出						

■科 目		■講師名	
歯科保健指導Ⅱ		君島 茜	
I 部 2 学年	前期	1 5 コマ（1 コマ 90 分授業）	総時間 30 時間 講義 1 単位
■学修概要			
口腔内健康の維持増進が、健康で質の高い生活を営む上での基礎的かつ重要な役割を果たしていることから、ライフステージごとの特性を踏まえつつ、生涯を通した切れ目ない歯科保健指導を行えるよう、指導・助言・管理の方法を修得する。			
■授業目的、到達目標			
歯科保健指導および歯科衛生教育の基礎的技法を習得し、臨床および公衆衛生、または年齢対象別等さまざまな状況に十分対応し得る能力を培い、実践できるようにする。			
■授業方法			
講義、グループワーク、グループディスカッション、発表			
■教科書（書籍名・出版社）			
歯科衛生学シリーズ／歯科予防処置論・歯科保健指導論		医歯薬出版	
歯科衛生学シリーズ／小児歯科学		医歯薬出版	
歯科衛生学シリーズ／高齢者歯科学		医歯薬出版	
■成績評価・講義上の注意			
定期試験や授業態度の他、以下項目による総合的な評価を行う			
グループワーク、グループディスカッション：グループとしての行動の内容、協力度、達成度			
発表：準医療従事者としての身だしなみや態度、発表の技術、発声			
レポート等の提出物：提出期限、与えられた課題に対する内容、自学自習のクオリティ			
■実務経験			
一般歯科・小児歯科・障害者歯科・訪問歯科・有病者歯科での臨床経験がある歯科衛生士の立場から、本教科において必要な知識と技術を伝える。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	ライフステージにおける歯科衛生介入（妊産婦期）		
2			
3	ライフステージにおける歯科衛生介入（乳児期）		
4			
5	ライフステージにおける歯科衛生介入（幼児期）		
6			
7	ライフステージにおける歯科衛生介入（学齢期）		
8			
9	ライフステージにおける歯科衛生介入（青年期）		
10			
11	ライフステージにおける歯科衛生介入（成人期）		
12			
13	ライフステージにおける歯科衛生介入（老年期）		
14			
15	定期試験、解答解説		

■科 目		■講師名	
歯科保健指導Ⅲ		君島 茜	
I 部 2 学年	後期	1 5 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 30 時間 演習 1 単位
■学修概要 口腔内健康の維持増進が、健康で質の高い生活を営む上での基礎的かつ重要な役割を果たしていることから、ライフステージまたは地域の特性を踏まえつつ、生涯を通した切れ目ない歯科保健指導を行えるよう、指導・助言・管理の方法を修得する。			
■授業目的、到達目標 歯科保健指導および歯科衛生教育の基礎的技法を習得し、臨床、年齢対象別あるいは地域歯科保健活動等さまざまな状況に十分対応し得る能力を培い、実践できるようにする。			
■授業方法 講義、グループワーク、グループディスカッション、発表			
■教科書（書籍名・出版社） 歯科衛生学シリーズ／歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ／障害者歯科学 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ／高齢者歯科学 医歯薬出版			
■成績評価・講義上の注意 定期試験や授業態度の他、以下項目による総合的な評価を行う グループワーク、グループディスカッション：グループとしての行動の内容、協力度、達成度 発表：準医療従事者としての身だしなみや態度、発表の技術、発声 レポート等の提出物：提出期限、与えられた課題に対する内容、自学自習のクオリティ			
■実務経験 一般歯科・小児歯科・障害者歯科・訪問歯科・有病者歯科での臨床経験がある歯科衛生士の立場から本教科において必要な知識と技術を伝える。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	配慮を要する者への歯科衛生介入（要介護高齢者）		
2			
3	配慮を要する者への歯科衛生介入（障害者）		
4			
5	地域歯科保健活動における健康教育		
6			
7	地域歯科保健活動における健康教育の方法		
8			
9	地域歯科保健活動のフィールド（保育所）		
10			
11	地域歯科保健活動のフィールド（学校）		
12			
13	地域歯科保健活動のフィールド（事業所）		
14			
15	定期試験、解答解説		

■科 目		歯科診療補助Ⅲ		■講師名		橋本 治美			
I 部 2 学年		前期		1 5 コマ（1 コマ 90 分授業）		総時間 30 時間		講義 2 単位	
■学修概要									
歯科診療の補助を行える歯科衛生士になるために必要な基本知識をつけ、医療人としての心構えを理解し、臨床における補助実習を行うことで技術と態度を修得する。									
■授業目的、到達目標									
・ 歯科衛生士が行う歯科診療の補助の概念を説明できる									
・ 保存学、口腔外科学、補綴学、矯正学、小児歯科学、放射線学における診療の補助の説明ができる									
・ 高齢者、障害者に配慮した診療の補助を説明できる									
■授業方法									
講義、実習									
■教科書（書籍名・著者・出版社）									
歯科衛生学シリーズ／歯科診療補助論 医歯薬出版									
歯科衛生学シリーズ 医歯薬出版他									
■成績評価・講義上の注意									
授業態度、実習態度、出席状況、提出物、小テスト、定期試験の総合評価									
■実務経験									
口腔外科を中心とする歯科医院での歯科衛生士として診療に携わる。その経験を基に、専任教員として診療補助を担当									
■授業計画（講義の流れ）									
1	保存修復学の診療補助①（前準備、直接・間接修復、ホワイトニング）								
2	保存修復学の診療補助②（コンポジットレジン、グラスアイオノマー修復）								
3	保存修復学の診療補助③（コンポジットレジン修復、充填・研磨）								
4	保存修復学の診療補助④（コンポジットレジン修復、充填・研磨）								
5	歯内療法の診療補助①（歯内療法で使用する器材、歯内療法の補助）								
6	歯内療法の診療補助②（実習：ブローチ綿花の作製、根管充填のアシスタント）								
7	歯周治療学の診療補助①（歯周療法における歯科衛生士の役割）								
8	歯周治療学の診療補助②（実習：歯周パック取扱い）								
9	口腔外科学の診療補助①（インプラント治療時のアシスタント、インプラント患者の口腔管理）								
10	口腔外科学の診療補助②（口腔外科における歯科衛生士の役割、口腔外科治療の術式、各種麻酔方法）								
11	口腔外科学の診療補助③（口腔外科の器材取扱い、ガウンテクニック）								
12	口腔外科学の診療補助④（周術期口腔管理）								
13	歯科補綴学の診療補助①（補綴治療時における歯科衛生士の役割、補綴治療時に使用する器材）								
14	歯科補綴学の診療補助②（義歯製作時の介助・補綴治療患者の口腔管理）								
15	定期試験 解答解説								

■科 目		歯科診療補助Ⅳ		■講師名		橋本 治美			
Ⅰ部2学年		前期		20コマ（1コマ90分授業）		総時間 40 時間		実習 1 単位	
■学修概要									
歯科診療の補助を行える歯科衛生士になるために必要な基本知識をつけ、医療人としての心構えを理解し、臨床における補助実習を行うことで技術と態度を修得する。									
■授業目的、到達目標									
・ 歯科衛生士が行う歯科診療の補助の概念を説明できる ・ 保存学、口腔外科学、補綴学、矯正学、小児歯科学、放射線学における診療の補助を行える ・ 高齢者、障害者に配慮した診療の補助を行える									
■授業方法									
講義、実習									
■教科書（書籍名・著者・出版社）									
歯科衛生学シリーズ／歯科診療補助論 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 医歯薬出版他									
■成績評価・講義上の注意									
授業態度、実習態度、出席状況、提出物、定期試験の総合評価									
■実務経験									
口腔外科を中心とする歯科医院での歯科衛生士として診療に携わる。その経験を基に、専任教員として診療補助を担当									
■授業計画（講義の流れ）									
1	歯科補綴学の診療補助③（実習：暫間被覆冠製作・シリコン印象材練和、カートリッジ装着）								
2	歯科補綴学の診療補助④（実習：暫間被覆冠製作・シリコン印象材練和、カートリッジ装着）								
3	歯科矯正学の診療補助①（歯科矯正治療時の使用器具の名称、用途、特徴）								
4	歯科矯正学の診療補助②（矯正力、歯の移動様式、矯正装置、情報収集、患者指導）								
5	歯科矯正学の診療補助③（口腔筋機能療法）								
6	小児歯科の診療補助①（小児の対応、行動療法、抑制法、小児で多様される術式）								
7	歯科放射線の診療補助①（エックス線撮影における歯科診療の補助、人体への影響、画像検査）								
8	小児歯科の診療補助②（実習：口腔内写真撮影・抑制法）								
9	歯科放射線の診療補助②（実習：デンタル撮影時の診療補助）								
10	高齢者歯科の診療補助①（高齢者の特徴と対応）								
11	高齢者歯科の診療補助②（歯科訪問診療、高齢者の診療補助、舌圧測定等アセスメント）								
12	障害者歯科の診療補助（対象者別（障害者）の特徴と対応）								
13	臨検の診療補助①（臨床検査の補助、正常な臨床検査値、血圧測定・Spo2 測定）								
14	臨検の診療補助②								
15	有病者の診療補助								

16	救急の診療補助（歯科衛生業務時の救急処置、災害支援活動）
17	口腔機能管理①
18	口腔機能管理②
19	口腔機能管理③
20	試験

■科 目 臨床・臨地実習 I		■指導教員 各科歯科医師、各科歯科衛生士
■時 期 I 部 2 学年 後 期 月・火・水		■時間数 総時間 450 時間 臨実 10 単位
■一般目標（GIO） 大学病院における臨床実習を通して歯科衛生士の役割を理解し、基本的な知識・技術・態度を身につける。		
■臨床実習施設 日本歯科大学附属病院		
■参考図書等 臨床実習要領		
■成績評価 臨床実習評価表、臨床実習ノート、出席状況により総合的に評価する。		
■学習計画	診療科 一般目標(GIO)	行動目標(SBOs)
10 月 1 日 3 月 18 日	【 診療基本項目 】 日本歯科大学附属病院における臨床実習を適正にかつ安全に行うために、各科での歯科衛生士業務に必要な基本的態度・技能・知識を身につける。	①スタッフ間のコミュニケーションを説明する ②患者と適切にコミュニケーションする ③医療安全の必要性を述べる ④感染予防に配慮する ⑤感染予防対策を具体的に述べる ⑥スタンダードプリコーションを説明する ⑦スタンダードプリコーションを見学する ⑧スタンダードプリコーションを模倣する ⑨医療廃棄物について説明する ⑩一般廃棄物と医療廃棄物を分別する ⑪歯科用ユニットの基本構造を述べる ⑫歯科用ユニットの操作法を模倣する ⑬歯科用ユニットの動作を確認する ⑭薬剤・器材を説明する ⑮薬剤・器材の使用を補助する

■学習計画	診療科 一般目標(GIO)	行動目標(SBOs)
<p>10月1日</p> <p>3月18日</p>	<p>【総合診療科】</p> <p>現代のニーズに応える歯科衛生士を目指すために、主要3科(歯科予防処置・歯科診療補助・歯科保健指導)に関する態度・技能・知識を習得する。</p>	<p>①診療を見学する</p> <p>②診療補助を模倣する</p> <p>③器具・機材の滅菌を見学する</p> <p>④器具・機材の滅菌を補助する</p> <p>⑤診療室の環境整備に参加する</p> <p>⑥歯周組織検査を述べる</p> <p>⑦歯周組織検査チャートに記入を補助する</p> <p>⑧口腔衛生指導を見学する</p> <p>⑨口腔衛生指導を模倣する</p> <p>⑩PMTCを見学する</p> <p>⑪PMTCを補助する</p> <p>⑫スケーラーの形態を説明する</p> <p>⑬シャープニングの方法を説明する</p> <p>⑭スケーリングを見学する</p> <p>⑮スケーリングを補助する</p> <p>⑯露出根面に対するフッ化物塗布を見学する</p> <p>⑰コンポジットレジン修復に必要な器具器材を準備する</p> <p>⑱コンポジットレジン修復の補助を実践する</p> <p>⑲根管治療に必要な器具器材を準備する</p> <p>⑳根管治療の補助を模倣する</p> <p>㉑フラップ手術の目的を述べる</p> <p>㉒フラップ手術に用いられる器具を説明する</p>

■学習計画	診療科 一般目標(GIO)	行動目標(SBOs)
10月1日 ～ 3月18日	<p>【小児歯科】</p> <p>大学病院における小児歯科診療業務を円滑に行うために、歯科衛生士に必要な態度・技能・知識を身につける。</p>	<p>①歯科医師、歯科衛生士が行う患児の誘導に付き添う</p> <p>②歯科医師、歯科衛生士の指示を受け患児の誘導をする</p> <p>③歯科医師、歯科衛生士の指示を受け患児の誘導後コミュニケーションをとる</p> <p>④患児と歯科医師、歯科衛生士とのコミュニケーションを見学する</p> <p>⑤患児と歯科医師、歯科衛生士とのコミュニケーションに参加する</p> <p>⑥患児とコミュニケーションをとる</p> <p>⑦障がい児・不協力児への対応を見学する</p> <p>⑧各診療の補助を見学する</p> <p>⑨各診療の補助を模倣する</p> <p>⑩各診療内容に適した器具、器材、材料の準備を見学する</p> <p>⑪各診療内容に適した器具、器材、材料の準備を補助する</p> <p>⑫各診療に用いられる薬剤を説明する</p> <p>⑬歯科医師、歯科衛生士の行う口腔衛生指導を見学する</p> <p>⑭歯科医師、歯科衛生士の行う口腔衛生指導を補助する</p> <p>⑮歯科医師、歯科衛生士の行う PMTC を見学する</p> <p>⑯歯科医師、歯科衛生士の行う PMTC を補助する</p> <p>⑰歯科医師、歯科衛生士の行うフッ化物歯面塗布を見学する</p> <p>⑱歯科医師、歯科衛生士の行うフッ化物歯面塗布を補助する</p> <p>⑲歯科医師、歯科衛生士の行う小窩裂溝填塞を見学する</p> <p>⑳歯科医師、歯科衛生士の行う小窩裂溝填塞を補助する</p>

■学習計画	診療科 一般目標(GIO)	行動目標(SBOs)
10月1日 ～ 3月18日	【口腔インプラント診療科】 高度先進歯科医療に対応した歯科衛生士に必要な態度・技能・知識を身につけるために、日本歯科大学附属病院におけるインプラント治療を理解する。	①インプラント治療の適応と禁忌を説明する ②インプラント治療における補綴治療を見学する ③インプラント治療における外科治療を見学する ④インプラント治療におけるメンテナンスを見学する ⑤インプラント関連器具・器材・機器の準備を見学する ⑥インプラント治療における安全な器具の受け渡しを見学する ⑦インプラント関連器具・器材・機器の片づけを見学する
10月1日 ～ 3月18日	【 歯科口腔外科 】 大学病院における口腔外科診療業務を円滑に行うために、歯科衛生士に必要な態度・技能・知識を身につける。	①口腔外科処置の手順を述べる ②安全な器具の受け渡しを見学する ③安全な器具の受け渡しを模倣する ④小手術を見学する
10月1日 ～ 3月18日	【 歯科麻酔・全身管理科 】 様々な患者に対応した歯科治療を安全かつ円滑に行うために、歯科衛生士に求められる態度・技能・知識を習得する。	①安全な器具の受け渡しを見学する ②障がい者に対する全身管理を見学する ③全身麻酔・鎮静法下での歯科治療介助を見学する ④精神鎮静法に必要な器具・器材の準備をする ⑤バイタルサインの測定を見学する ⑥ペインクリニックについて見学する

■科 目		歯科保険請求事務		■講師名		齋藤 育子																	
I 部 2 学年		後期 8 コマ（1 コマ 90 分授業）		総時間 15 時間		講義 1 単位																	
<div>■学修概要</div> <p>歯科医院における医療事務を遂行するにあたり必要な能力を育成する。</p> <p>歯科疾患を説明する。点数算定の仕組み（各診療行為の算定におけるルール）を説明する。</p> <p>これらの知識をふまえた上でレセプト作成を行う。</p>																							
<div>■授業目的、到達目標</div> <p>医療保険制度を理解することができる。</p> <p>疾患別の治療方法を学び治療の流れを理解することができる。</p> <p>点数算定の仕組み（各診療行為におけるルール）を理解することができる。</p>																							
<div>■授業方法</div> <p>講義形式</p> <p>歯科疾患、治療の流れ、点数算定の仕組み等の知識をふまえた上でカルテの点数算定をし、レセプト作成をする。</p>																							
<div>■教科書（書籍名・出版社）</div> <p>使用しない</p>																							
<div>■成績評価・講義上の注意</div> <p>平常点（授業への参加・意欲）・・・30% 提出物（レセプト）・・・20% 定期試験・・・50%</p>																							
<div>■実務経験</div> <p>歯科衛生士、医療事務管理士の資格を有し歯科衛生士として診療所、保健所（10 年間）勤務する。</p> <p>医療事務管理士として保険請求事務を昭和 60 年より現在まで行う。また、平成 21 年より医療系専門学校、歯科衛生士学校、短期大学にて歯科医療事務講座を担当し現在に至る。</p>																							
<div>■授業計画（講義の流れ）</div> <table><tr><td>1</td><td>歯科医療事務への導入 口腔の基礎知識</td></tr><tr><td>2</td><td>投薬</td></tr><tr><td>3</td><td>疾患別症例（う蝕症）</td></tr><tr><td>4</td><td>疾患別症例（歯内療法）</td></tr><tr><td>5</td><td>疾患別症例（歯周疾患）</td></tr><tr><td>6</td><td>疾患別症例（口腔軟組織疾患・手術）</td></tr><tr><td>7</td><td>まとめ・試験対策</td></tr><tr><td>8</td><td>定期試験 解答解説</td></tr></table>								1	歯科医療事務への導入 口腔の基礎知識	2	投薬	3	疾患別症例（う蝕症）	4	疾患別症例（歯内療法）	5	疾患別症例（歯周疾患）	6	疾患別症例（口腔軟組織疾患・手術）	7	まとめ・試験対策	8	定期試験 解答解説
1	歯科医療事務への導入 口腔の基礎知識																						
2	投薬																						
3	疾患別症例（う蝕症）																						
4	疾患別症例（歯内療法）																						
5	疾患別症例（歯周疾患）																						
6	疾患別症例（口腔軟組織疾患・手術）																						
7	まとめ・試験対策																						
8	定期試験 解答解説																						

■科 目		総合臨床 1		■講師名		君島 茜	
I 部 2 学年		通年 1 5 コマ (1 コマ 90 分授業)		総時間 30 時間		講義 2 単位	
■学修概要							
将来像を明確にして、国家試験合格を視野に入れた具体的な学習方法、学ぶ姿勢を身につける。 自己分析や事前学習を行うことにより授業や臨地・臨床実習での習熟度が高まる。							
■授業目的、到達目標							
第 1 学年び第 2 学年前期に学習した内容の復習をすることで、国家試験対策を行う。 歯科衛生士としての総合的な基礎力、応用力を習得し、国家試験合格を目指す。							
■授業方法							
講義、演習							
■教科書（書籍名・出版社）							
歯科衛生士書き込み式学習ノート①～④ / 医歯薬出版 ①専門基礎科目編 ②社会歯科系科目編 ③臨床科目編〈上〉 ④臨床科目編〈下〉							
■成績評価・講義上の注意							
出欠席、授業態度、提出物による総合的な評価							
■実務経験							
歯科衛生士として、臨床及び教育現場で歯科衛生士や学生教育に携わる。その実績を反映し臨床経験に基づいた幅広い視点から知識、技術を学ぶ機会を提供したいと考えている。							
■授業計画（講義の流れ）							
1	歯科衛生士書き込み学習ノート①専門基礎科目編の復習						
2							
3	歯科衛生士書き込み学習ノート②社会歯科系科目編の復習						
4							
5	歯科衛生士書き込み学習ノート③臨床科目編〈上〉						
6							
7							
8							
9	歯科衛生士書き込み学習ノート④臨床科目編〈下〉						
10							
11							
12							
13	自己分析と具体的な学習の進め方						
14	国家試験過去問題の効果的な活用方法						
15	定期試験（国家試験過去問題を実施し理解力を確認）						

■科 目		総合臨床 2		■講師名		佐藤 潤子	
I 部 2 学年		前期 8 コマ（1 コマ 90 分授業）		総時間 15 時間		講義 1 単位	
■学修概要 歯科衛生士としての総合的な基礎力、応用力を習得し、国家試験合格のために理解を深める。 模擬試験・国家試験過去問題・総合試験を実施し、具体的な国家試験合格を視野に入れ学ぶ姿勢を身につける。							
■授業目的、到達目標 臨地・臨床実習を通して専門分野のグループワークを行い歯科衛生士に求められる専門知識の根本的に理解し応用可能にする。 代表的な症例の深い理解や知識を繋げることにより臨地・臨床実習だけでなく国家試験対策にも役立てられる。 歯科衛生士としての総合的な基礎力、応用力を習得し、国家試験合格を目指す。							
■授業方法 講義、演習（グループワーク、グループディスカッション、発表）							
■教科書（書籍名・出版社） 各種教科書 歯科衛生士書き込み式学習ノート①～④ / 医歯薬出版 ①専門基礎科目編 ②社会歯科系科目編 ③臨床科目編〈上〉 ④臨床科目編〈下〉							
■成績評価・講義上の注意 定期試験、授業態度、課題の他、以下の項目による総合的な評価 グループワーク・グループディスカッション：グループとしての行動の内容、協力度、達成度 発表：発表の態度、技術、発声、参加することへの積極性 課題提出：提出期限、内容							
■実務経験 歯科衛生士として長きに亘り、臨床及び教育現場で歯科衛生士や学生教育に携わる。その実績を反映し臨床経験に基づいた幅広い視点から知識、技術を学ぶ機会を提供したいと考えている。							
■授業計画（講義の流れ）							
1	国家試験概要説明 / 歯科衛生士書き込み学習ノート①専門基礎科目編、②社会歯科系科目編の復習						
2	歯科衛生士書き込み学習ノート③④臨床科目編の復習						
3	症例検討：保存修復症例、補綴症例、小児歯科症例、矯正症例、口腔外科症例、歯周・歯周外科療 計 6 症例に関して課題考察						
4	症例発表：症例診断名・治療目的・治療手順・使用器具・問題点						
5	発表症例に関する練習問題を実施し理解力を確認						
6	発表症例を効果的に活用した学習方法						
7	発表症例に関する国家試験過去問題の理解力を確認						
8	定期試験（総合試験：国家試験に準ずる）						